

2019年のできごと

1月5日 企画展「第22回全国児童生徒地
図優秀作品展」を開催

地図と測量の科学館ほか2会場において、企画展「第22回全国児童生徒地図優秀作品展」を開催した。本企画展は、全国各地で開催されている児童生徒の地図に関する作品展から選ばれた優秀作品を展示するもので、96作品を展示した。また、国土交通大臣賞、文部科学大臣賞の表彰式が1月8日に国土交通省で行われた。

1月11日 平成31年1月8日の種子島近海
の地震に伴う地殻変動を観測

1月8日21時39分に種子島近海で発生した地震(M6.0, 最大震度4)に伴う地殻変動を電子基準点で観測した。

1月28日 「多様な主体が管理する道活用」
連絡会(第5回)を開催

災害時の国民の安全・安心の確保を図るため、山間地等において、民間を含め多様な主体が管理する道を把握・共有し、避難路や代替輸送路として活用する取組が求められている。

このため、道路、農道、林道や民間の道の関係機関等で構成する「多様な主体が管理する道活用」連絡会(座長 米田 雅子 慶應義塾大学 先端研究センター特任教授)を設置し検討を進めた。

1月31日 「平成30年全国都道府県市区町
村別面積調」を公表

平成30年10月1日現在の日本国土の面積をとりまとめた「平成30年全国都道府県市区町村別面積調」を公表した。平成30年の国土面積は、平成29年の377,973.89km²から377,974.17km²になった。

1月31日 洪水や土砂災害から命を守るア
プリ4作品を表彰

住民等による災害への備えを支援する防災アプリケーション4作品が決定し、このうち宮崎県立佐土原高等学校の作成した「SHS 災害 info.2018」が防災アプリ大賞に選ばれた。

1月31日 第16回北海道測量技術講演会を
開催

北海道地方測量部は、(公社)日本測量協会と共に札幌第1合同庁舎(北海道札幌市)において、測量の日記念行事として、第16回北海道測量技術講

演会を開催した。本講演会では、「平成30年北海道胆振東部地震の振り返りと国土交通省の対応」をテーマとして、この地震のメカニズムや斜面崩壊等の被災状況、国土交通省における災害対応及び復旧・復興の取組等について報告した。

2月1日 JAXAと国土地理院の宇宙測地
～(翌年)3月 技術の共同研究を展示
31日

新たな取組としてJAXA(国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構)と協力をして、互いの展示施設において宇宙測地技術を用いた取組を分かりやすく紹介した。「地図と測量の科学館」においては、国土地理院が提供している様々な災害対応をパネルで分かりやすく解説するとともに、「H-2A型ロケット」、陸域観測技術衛星「だいち2号」、電子基準点」の模型を展示している。

2月 ～12月 「近代測量150年」パネル展を
開催

2019年は明治政府に近代測量を行う機関として、国土地理院の前身である「民部官庶務司戸籍地図掛」が設置された1869年(明治2年)から数えて満150年となった。

この節目の年に、全国164箇所(道の駅)で150年間の社会の発展を支えてきた近代測量の歩みを紹介するパネル展を開催した。

2月5日 平成30年度北陸地方産学官連絡
会議「福井県分科会」を開催

北陸地方測量部は、福井市地域交流プラザ(福井県福井市)において、平成30年度北陸地方産学官連絡会議『福井県分科会』を開催した。地理空間情報活用推進に関する取組や活用事例等についての講演とともに地理空間情報の活用推進に係わる意見交換を行った。

2月16日 「地図と防災パネル展示」に参加

北陸地方測量部は、富山県広域消防防災センター(富山県富山市)において開催された「ジュニア防災フェスティバル」に「地図と防災パネル展示」として参加し、地理院地図の紹介や国土地理院の災害対応を中心としたパネルを展示した。

2月20日 平成30年北海道胆振東部地震に
より変動した水準点と電子基準

点の新しい標高成果を公表

平成30年北海道胆振東部地震による被害からの震災復旧・復興事業に資するために緊急水準測量（水準点の再測量）を実施した。

震源域周辺において総延長236kmの緊急水準測量を実施し、一等水準点及び二等水準点120点に加え、電子基準点6点と各電子基準点付属標（二等水準点）の標高成果も改定した。

3月4日、平成30年7月豪雨等災害対策関係功労者に感謝状を贈呈

草津白根山の火山活動、平成30年7月豪雨、平成30年北海道胆振東部地震の災害対策活動において、被害状況把握のための空中写真撮影・水準測量等に尽力いただいた9社3団体に、災害対策関係功労者として国土地理院感謝状を贈呈した。

3月12日 企画展「高さってなんだろう？」～6月30日 を開催

地図と測量の科学館において、「近代測量150年」企画展の第一弾として、企画展「高さってなんだろう？」を開催した。国土地理院は明治以来150年に渡って精密な測量を繰り返し、土地の高さを求めてきた。今回の企画展では、生活に密接に関わる「高さ」の奥深さを分かりやすく紹介した。

3月15日 第23回測量行政懇談会を開催

関東地方測量部において、第23回測量行政懇談会（委員長：清水英範東京大学大学院教授）を開催した。本懇談会では、国土地理院の災害対応についての報告、「地理教育支援検討部会」において検討してきた、学習指導要領の改訂に伴う小中学校における地理教育の充実と高校地理必修化を見据えた地理教育支援のあり方についての報告、及び国土地理院が所掌する測量行政に関する重要事項を調査検討する「測量行政懇談会」の新たなテーマについて議論が行われ、本懇談会で了承された「地理教育支援検討部会」からの最終報告に基づく「測量行政懇談会報告書」について、委員長から国土地理院長に手渡された。

3月15日 「自然災害伝承碑」に関する取り組みを開始

2019年度から「自然災害伝承碑」を新たに制定し、地方公共団体と連携して「自然災害伝承碑」の情報の収集を開始した。集めた情報は「地理院地図」や「1:25,000地形図」に掲載し、先人が伝える災害教訓の周知・普及に取り組むこととした。

3月26日 「地理院地図」で、住所リストを

瞬時に地図表示できるようになった

国土地理院のウェブ地図「地理院地図」で、住所リストを簡単に地図表示できるようになった。

3月27日 「多様な主体が管理する道活用の手引き」の作成

「多様な主体が管理する道活用」連絡会の議論・検討を受け、多くの地方公共団体での取組を促進するため、「多様な主体が管理する道活用の手引き」を作成し、公開した。

5月13日 令和元年5月10日の日向灘の地震に伴う地殻変動を観測

5月10日08時48分に日向灘で発生した地震（M6.3, 最大震度5弱）に伴う地殻変動を電子基準点で観測した。

5月19日 令和元年測量士・測量士補試験を実施

全国14箇所の試験地（15試験会場）において、令和元年測量士・測量士補試験を実施した。受験者数は、測量士3,232名、測量士補13,764名であった。

5月20日 大分大学と九州地方測量部が連携・協力協定を締結

国土地理院九州地方測量部と大分大学減災・復興デザイン教育研究センターは、それぞれが保有する地理空間情報の相互利用、防災・減災に向けての協力の強化、調査研究及び防災教育について連携を図るため、協力協定を締結した。本協定は、国土地理院の地方測量部と大学が締結する全国で初めての協定となった。

5月22日 日本水準原点を一般公開

関東地方測量部は、(公社)日本測量協会と共に、我が国の土地の高さの基準となっている日本水準原点を一般公開した。あわせてパネルの展示やミニ講座を開催して、原点や水準測量等の紹介を行った。

5月28日 「みなとオアシス」を「地理院地図」に掲載

国土交通省港湾局が地域の賑わいの拠点を登録する「みなとオアシス」を地理院地図に掲載した。身近にある「みなとオアシス」を知ることができ、旅先で「みなとオアシス」を訪れたりすることができる。

5月30日 「測量の日」記念講演会を開催
「測量の日」四国地区推進協議会は、JR ホテルクレメント高松（香川県高松市）において、「測量の日」記念講演会を開催した。

5月31日 西之島の地形図と海図を改版
国土地理院と海上保安庁は、平成29年4月以降の噴火活動により拡大した西之島の地形や同島周辺の水深の変化を反映するため、西之島の地形図と海図を改版し、発行した。平成29年6月発行の地図と比較すると、西之島の面積は0.17km²の増加にとどまるものの、陸域が西側に広がることから、我が国の管轄海域の面積がさらに約50km²（領海：約4km²、EEZ:約46km²）拡大することになった。

5月31日 「測量の日」地図パネル展を開催～6月1日
北陸地方測量部は、アオッサ（福井県福井市）において、「測量の日」地図パネル展を開催した。近代測量150年のあゆみと国土地理院の活動の紹介、空中写真と地図で見る福井駅周辺の昭和から平成への移り変わり、防災に役立つ福井駅を中心とした活断層図及びデジタル標高図などのパネルを展示した。

6月1日 第31回「測量の日」記念-地図と測量のミニフェスタ-を開催
東北地方測量部は、スリーエム仙台市科学館（宮城県仙台市）において、「第31回「測量の日」記念-地図と測量のミニフェスタ-」を開催し、測量・地図に関するパネル展示や測量体験等を行った。

6月2日 「測量の日」特別企画 ～遊んで学ぶ地図と測量の世界2019～
地図と測量の科学館において、「測量の日」特別企画を開催し、国土地理院が提供している様々な地理空間情報をわかりやすく紹介するとともに、子どもから大人まで楽しみながら地図と測量に関する体験ができる企画を行った。今年は、「近代測量150年」の節目の年に当たることから「測量の今と昔」がわかる展示や体験学習、令和に生まれる地図記号「自然災害伝承碑」を紹介した。また、NHK大阪放送局の小野田真由美氏を講師にお招きして「時代の礎 測量と共に令和へ」という題目で講演会を行った。

6月3日 特殊切手「近代測量150年」(@82×10枚組 切手シート)の発行
特殊切手「近代測量150年」(@82×10枚組 切手シート)が日本郵便株式会社から発行された。

6月3日 「測量の日」記念フェア2019を開催
近畿地方測量部は、(一社)大阪府測量設計業協会及び大阪土地家屋調査士会と共に、大阪合同庁舎第4号館（大阪府大阪市）において、「測量の日」記念フェア2019を開催した。本記念フェアでは、第23回近畿地方測量技術発表会及びパネル展、測量機器・システム展が行われた。

6月3日 「測量の日」パネル展を開催～6月5日
沖縄支所は、「測量の日」沖縄県実行委員会と共に沖縄県庁県民ホール（沖縄県那覇市）において、「測量の日」パネル展を開催した。

6月4日 「測量の日」記念講演会を開催
「測量の日」中部地区連絡協議会は、愛知県産業労働センター「ウインクあいち」（愛知県名古屋）において、「測量の日」記念講演会を開催した。

6月5日 第48回国土地理院報告会を開催
日経ホール（東京都千代田区）において第48回国土地理院報告会を開催した。国土地理院からの報告のほか、東京大学大学院工学系研究科の清水英範氏から特別講演をいただいた。本報告会には519名の参加があった。

6月5日 令和元年度【測量の日】記念事業第27回山形県高等学校サーベイコンテスト
東北地方測量部は、山形県高等学校サーベイコンテスト実行委員会として、県総合運動公園において、県内で測量技術を学ぶ高校生に対し、測量技術の習得、向上を目的に平板測量、水準測量、TS測量の3部門の測量競技を実施した。

6月5日 「くらしと測量・地図」展を開催～6月7日
関東地方測量部は、「測量の日」東京地区実行委員会の事務局として、新宿駅西口広場イベントコーナー（東京都新宿区）において、「くらしと測量・地図」展を開催した。「地図と測量で振り返る平成-災害と技術革新の時代-」をテーマに、平成における災害や、測量技術の変遷等を紹介した。

6月8日 奥州市測量フェスティバル
東北地方測量部は、イオン前沢店駐車場（岩手県奥州市）において、「奥州市測量フェスティバル」を開催し、測量・地図に関するパネル等の展示及び測量に関するクイズとゲームを行った。

6月19日 「自然災害伝承碑」を「地理院地図」に掲載

「自然災害伝承碑」の情報を、ウェブ地図「地理院地図」に6月19日から掲載を開始した。今回は全国45市区町村の135基の「自然災害伝承碑」の情報を「地理院地図」に掲載した。

6月19日 令和元年6月18日の山形県沖の地震に伴う地殻変動を観測

6月18日22時22分に山形県沖で発生した地震(M6.7, 最大震度6強)に伴う地殻変動を電子基準点で観測した。

6月20日 スグダス(SGDAS)システムの運用を開始

国土地理院が保有する地形・地質等の膨大なデータベースと、気象庁が発表する地域の震度分布データを活用し、地震発生直後に、斜面崩壊・地すべり・液状化の発生している可能性がある場所を推計するシステム「スグダス(SGDAS)」の運用を6月20日から開始し、災害初動対応に活用する。

6月24日 第24回中国地区測量技術講演会を開催

中国地方測量部は、「測量の日」中国地区連絡協議会と共に広島県民文化センター(広島市中区大手町)において、第24回中国地区測量技術講演会を開催した。

7月2日 「測量の日」記念講演会

九州地方測量部は、(一社)福岡県測量設計コンサルタント協会と共に、福岡県中小企業振興センター(福岡県福岡市)において、「測量の日」記念講演会を開催した。

7月3日 「測量の日」講演会

九州地方測量部は、オリエンタルホテル博多ステーション3階(福岡県福岡市)において、「測量の日」記念講演会を開催した。

7月4日 「測量の日」記念講演会を開催

「測量の日」四国地区推進協議会は、サン・イレブン高松(香川県高松市)において、「測量の日」記念講演会を開催した。

7月9日 令和元年測量士・測量士補試験の合格者発表

令和元年測量士・測量士補試験の合格者を発表した。合格者数は、測量士479名、測量士補4,924名で、その内、女性の合格者数は、測量士44名、

測量士補652名であった。合格率は、測量士14.8%、測量士補35.8%であった。

7月11日 令和元年度国土地理院入札監視委員会総会及び第1回定例会議を開催

関東地方測量部において、令和元年度国土地理院入札監視委員会総会及び第1回定例会議を開催した。総会では、委員会の運営に関する説明及び委員長・委員長代理の選出等が行われ、委員長に川合竜太委員、委員長代理に佐々木直彦委員が選出された。定例会議では、国土地理院が発注した平成30年10月1日から平成31年3月31日までの測量業務、役務の提供等及び物品の製造等の中から委員会が抽出した事案についての審議が行われた。

7月12日 北海道南西沖地震に関する「自然災害伝承碑」を「地理院地図」に掲載

北海道南西沖地震の発生日(1993年7月12日)に合わせて、新たに13市区町村の24基の「自然災害伝承碑」の情報を「地理院地図」に掲載した。北海道、山形県、静岡県、島根県、宮崎県の5道県では、初めての掲載となった。

7月16日 優良業務並びに優良技術者表彰式を実施

平成30年度に完了した国土地理院発注の測量業務実施者のうち、特に優れた成績を収めた優良業務並びに優良技術者に対し、測量事業関係功労者2名、優良業務9件(うち5件は災害対応)、優良技術者8名(うち4名は災害対応)の院長表彰を行った。

7月17日 企画展「地図と私たち」を開催～10月6日

地図と測量の科学館において、「近代測量150年」企画展の第二弾として、企画展「地図と私たち」を開催した。地図と測量の意義と重要性や、身近な地域の防災に対する関心、地図に対する興味を持ち親しんでいただくため、地図をつくる体験や読み方、災害への対処方法などを紹介した。

7月22日 航空機による重力値の測定(航空重力測量)を開始

国内では初めての取り組みとなる航空機による重力測量を開始した。この取組は、今年度から4年間で全国を実施する計画で、GPSや準天頂衛星システム等を使って、いつでも・どこでも・誰でも簡単に正確な標高がわかる社会の実現のため、その

基盤となる標高の基準を構築する。

に刊行した。

7月23日 航空レーザ測深に関する技術開発～8月9日 発を行う企業等を募集

7月23日から、オープンイノベーション（さまざまな技術・アイデア・ノウハウ等を持ち寄りスピーディーに実装化を図る開発手法）により、航空レーザ測深に関する技術開発に参加する企業等を募集した。

7月25日 牛首断層帯及び跡津川断層帯など4つの断層帯の活断層図を公開

平成7年1月の阪神・淡路大震災を契機に、政府の地震調査研究推進施策の一環として、全国の主要な活断層帯を対象に、活断層の詳細な位置や関連する地形の分布等の情報を整備し、「1:25,000活断層図」として公開した。

7月29日 「地理院地図」で、自分でデザインしたウェブ地図を簡単に作成できるようになった

平成26年度より行っている「ベクトルタイル提供実験」を拡充し、新たに自分で地図をデザインできるウェブ地図「地理院地図 Vector」（仮称）を試験的に公開した。白地図や、写真に地名を重ねた地図など、学校教育現場や防災分野で活用できる地図を簡単に作成できるようになった。

7月30日 測量の生産性を向上する革新的～8月29日 技術を募集

「測量の生産性を向上するための革新的技術の導入・活用に関するプロジェクト」の一環として、測量の生産性を向上するために、7月30日より革新的技術の公募を行った。

8月11日 「地図と防災パネル展示」に参加

北陸地方測量部は、富山県広域消防防災センター（富山県富山市）において開催された「ジュニア防災フェスティバル」に「地図と防災パネル展示」として参加し、近代測量150年のあゆみ、地理院地図や、新たな地図記号『自然災害伝承碑』を紹介したパネルを展示した。来場者は過去最高となる1,186名となった。

9月1日 「自然災害伝承碑」を掲載した「1:25,000地形図」を刊行

地図記号「自然災害伝承碑」を掲載した初めての「1:25,000地形図」を防災の日にあたる9月1日

9月4日 「忘れない『災害の記憶』～北海道胆振東部地震」の発生から1年～」パネル展を開催

北海道地方測量部は、北海道開発局や札幌管区気象台と共に札幌第一合同庁舎（北海道札幌市）において、「忘れない『災害の記憶』～北海道胆振東部地震」の発生から1年～と題してパネル展を開催した。展示では、H30年北海道胆振東部地震での被災状況を説明するとともに、災害対応についての取組も紹介した。

9月17日 令和2年測量士・測量士補試験考査委員会を開催

関東地方測量部において、令和2年測量士・測量士補試験考査委員会（委員長：堤盛人筑波大学教授）を開催した。本委員会では、令和元年測量士・測量士補試験実施結果を報告、令和2年測量士・測量士補試験実施計画及び令和2年測量士・測量士補試験問題作成方針を審議、決定した。

9月19日 航空レーザ測深に関する技術開発チームを結成

オープンイノベーション（さまざまな技術・アイデア・ノウハウ等を持ち寄りスピーディーに実装化を図る開発手法）により「航空レーザ測深の精度向上、作業効率化に資する技術開発」に参加する企業等を募集し、開発チームが結成された。

9月20日 伊勢湾台風に関する「自然災害伝承碑」を「地理院地図」に掲載

襲来から60年となる伊勢湾台風に関する「自然災害伝承碑」を既に公開している三重県木曾岬町の1基に加え、新たに28基（愛知県名古屋10基、刈谷市1基、弥富市5基、飛鳥村1基、三重県桑名市11基）を地理院地図に掲載した。

9月22日 特別展「測量×地図 測り・描き・～12月8日 守り・伝える」を開催

近代測量150年記念事業推進会議と（公財）新宿未来創造財団新宿歴史博物館が主催で、新宿歴史博物館（東京都新宿区）において、特別展「測量×地図 測り・描き・守り・伝える」として、測量機器や地図等の展示を行った。歩いて測った時代から衛星測量の時代まで、測量技術の進歩と地図の歴史を紹介した。併せて実施した写真コンテストの入賞作品を展示した。

9月25日 日本水準原点と日本水準原点標

庫が「令和元年度土木学会選奨土木遺産」に認定

1891年(明治24年)以来、我が国の高さの基準としての役割を担い続けている貴重な石造施設としての価値が評価され、日本水準原点と日本水準原点標庫(東京都千代田区永田町)が「令和元年度土木学会選奨土木遺産」に選定された。

10月4日 「民間等電子基準点の性能基準及び登録要領」を制定

事業者が設置しようとするGNSS連続観測局の規格を審査し、当該GNSS連続観測局を用いた測定の正確さを確保することを目的とした「民間等電子基準点の性能基準及び登録要領」を5月31日から7月5日までのパブリックコメントを経て制定した。

10月4日 関西G空間フォーラム2019を開催

近畿地方測量部は、地理空間情報活用推進に関する近畿地区産学官連携協議会の活動の一環として、大阪工業大学梅田キャンパス(大阪府大阪市)で関西G空間フォーラム2019を共催した。

10月7日 基本測量の新たな担い手を募集

近年の自然災害の増加により緊急に行う測量業務の必要性が高まる中、国土地理院発注の基本測量業務の受注実績がない企業の参入機会を広げ、新たな基本測量の担い手を確保するため、新たな試行業務を実施した。

10月8日 国土地理院が「JICA理事長表彰」を受賞

国土地理院は、国土開発の基礎情報として不可欠な地理空間情報に関して、国際協力機構(JICA)の事業を通じて、1959年(昭和34年)から1年も欠かすことなく100か国900名を超える研修員を受け入れるとともに、250人以上の職員を専門家として海外に派遣し、開発途上国の人材・組織強化に貢献してきた。こうした取組みが高く評価され「JICA理事長賞」を受賞した。

10月11日 令和初の「全国都道府県市区町村別面積調」を公表

全国都道府県市区町村別面積調は、令和元年から、四半期毎(7月1日時点、10月1日時点、1月1日時点、4月1日時点)の調査を開始し、令和初となる日本国土の面積をとりまとめた「令和元年全国都道府県市区町村別面積調」(7月1日時点)を公表した。令和元年7月1日時点の国土面積は、

平成30年10月1日時点の377,974.17km²から377,974.92km²になった。

10月20日 一等三角点「氷ノ山」の柱石交換を実施

近畿地方測量部は、中国地方測量部と共に鳥取県との県境に位置する兵庫県最高峰である一等三角点「氷ノ山」の柱石交換を養父市の協力のもとに行った。

10月22日 御即位記念地図「東京中心部」を刊行

天皇陛下の御即位を記念して、御即位記念地図1万分1地形図「東京中心部」(日本語版及び英語版)を即位礼正殿の儀が執り行われた令和元年10月22日に刊行した。御即位記念地図の刊行は、大正、昭和、平成に続き、今回が4回目となる。

10月29日 令和元年度「地理空間情報の活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議」を開催

北陸地方測量部は、金沢商工会議所(石川県金沢市)において、令和元年度「地理空間情報の活用推進に関する北陸地方産学官連絡会議」を開催した。北陸地方における地理空間情報の利活用推進に資する講演と地理空間情報の利活用状況及び課題について意見交換を行った。

11月5日 津波災害に関する「自然災害伝承碑」を「地理院地図」に掲載

「世界津波の日」である11月5日に合わせて、新たに津波災害関連の27基(北海道えりも町2基、青森県三沢市2基、岩手県陸前高田市17基、福島県楡葉町3基、大分県佐伯市1基、沖縄県石垣市2基)を地理院地図に掲載した。

11月6日 企画展「大転換!平成の測量」を~12月20日開催

地図と測量の科学館において、近代測量150年最終章として企画展「大転換!平成の測量」を開催した。平成時代は測量技術や地図作成技術の大きな転換があり、測量法が改正され、位置を表す基準が日本測地系から世界測地系へ変更、VLBIやGNSS測量といった宇宙から大地を測る技術の進化など平成時代からの測量と地図を中心に紹介した。

11月7日 令和元年度国土技術研究会に参加

国土交通省本省において、令和元年度国土交通

省国土技術研究会が開催された。国土地理院から自由課題（イノベーション部門）1課題，自由課題（一般部門：安全・安心部門）1課題，ポスターセッション3課題の発表を行った。この内，自由課題（イノベーション部門）で優秀賞を受賞した。

11月9日， 「新旧の測量スポット探訪ウォーキングツアー」を開催
11月30日

近代測量150年記念事業推進会議が主催し，測量に関する様々な史跡・施設や自然災害伝承碑を歩いて巡る新旧の測量スポット探訪ウォーキングツアーを神戸と東京において開催した。

11月16日 仙台市博物館で測量体験イベントを開催

東北地方測量部は，仙台市博物館の企画展「やっぱり絵図がすき！」（10月11日～12月1日）に協力し，「絵図仕立人になって測量してみよう！」と題し平板測量の体験イベントを行った。

11月25日 関西G空間フォーラム in 和歌山を開催

近畿地方測量部は，地理空間情報活用推進に関する近畿地区産学官連携協議会の活動の一環として，和歌山ビッグ愛（和歌山県和歌山市）で関西G空間フォーラム in 和歌山を共催した。

11月25日 令和元年度地理空間情報産学官中国地区連携協議会を開催

中国地方測量部は，広島市において令和元年度地理空間情報産学官中国地区連携協議会を開催した。中国地区における地理空間情報に関する講演及び現状と課題について意見交換を行った。

11月26日 「第20回いばらき児童生徒地図～12月8日 作品展」を開催

関東地方測量部は，いばらき児童生徒地図研究会の事務局として，身のまわりの環境や地域，地図に対する関心を深めてもらうことを目的に，茨城県内の小・中学生を対象として「第20回いばらき児童生徒地図作品展」を開催し，応募作品242点のうち優秀な作品49点を展示した。

11月28日 G空間EXPO2019が開催
～11月30日

日本科学未来館（東京都江東区）において，G空間EXPO2019が開催された。本EXPOは，地理空間情報の最先端技術やサービスを集結し，未来をつくる日本の技術やサービスを紹介するとともに，新たな技術やサービスの創出，民間事業者等の

提案や創意工夫を掘り起こす場として産学官の連携により開催され，3日間で15,513人の入場者があった。国土地理院は，施策に関する展示，Geoアクティビティコンテスト及び地理院地図パートナーネットワーク会議等を実施した。

また，SPACシンポジウム2019において，黒川純一院長が基調講演を行った。

11月28日 「地理院地図パートナーネットワーク会議」を開催

地理院タイルをはじめとする地理空間情報の活用推進のため，国土地理院，受託開発者，ツール提供者が参加する地理院地図パートナーネットワーク会議を開催し，情報共有や意見交換を実施した。

12月10日 地図の利用手続を緩和

令和元年12月10日から地図等の利用にかかる申請不要の範囲を広げ，利用者がより簡便に利用できるように改正した。デジタルデータが普及し，オープンデータ化が推進されている状況を考慮し，測量行政懇談会（委員長 清水英範東京大学大学院教授）の下で，地図の利用手続のあり方について検討が実施され，報告書（提言）が国土地理院長に提出された。今回の改正は，その報告書（提言）を踏まえ，申請を要する範囲を限定し，申請不要の範囲を広げることで，地図の活用促進が期待される。

12月13日 令和元年度補正予算の政府案が決定

令和元年度補正予算の政府案が閣議で決定され，国土地理院関係の補正予算案額は，総額618百万円となった。

12月17日 第24回測量行政懇談会を開催

関東地方測量部において，第24回測量行政懇談会（委員長：清水英範東京大学大学院教授）を開催した。本懇談会では，3次元地図に関して測量行政が今後取り組んでいくべき事項を検討している「3次元地図検討部会」の検討状況，及び最近終了した部会（地理教育支援検討部会，地図の利用手続のあり方検討部会，測位基盤検討部会）のフォローアップ等の報告を基に議論が行われた。

12月20日 令和2年度予算の政府案が決定

令和2年度予算の政府案が閣議で決定され，国土地理院関係の予算案額は，総額105.4億円となった。このうち，重要インフラの緊急対策にかかる予算案額（臨時・特別の措置）は，総額10.1億円となった。

12月27日 「近代測量150年」節目の年に、
「日本水準原点」を国指定重要文化財に指定

日本水準原点は、日本の高さの基準として我が国の測量の歴史を支えてきた最も重要な施設の一つであり、測量分野の建造物としては初となる国の重要文化財に指定された。同時期に設置された監視用の附属水準点標石3点もあわせて指定を受けることとなった。